



安全安心な社会を創る建設技術を紹介します！

第24回 茨城会イブニングセミナー

主催：(公社)土木学会関東支部茨城会

土木学会関東支部茨城会では、都市空間の安全安心を創る様々な建設技術について、最先端の研究者・技術者をお招きして勉強する会を広く一般に公開しています。業務との関係を考慮しまして、仕事帰りに勉強できるよう、夕方 18:00 開会のイブニングセミナー形式を取っています。私どもが安心して暮らすことのできる社会を創るための建設技術を多くの方々に知って頂きたい、参加費は無料とし（会場準備の関係上事前登録制）、技術者の継続学習への貢献を考え、希望者には土木学会 CPD 単位をお渡ししております。この度は下に示す講師による講演を企画いたしました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。どうぞお気軽に参加登録を頂ければと存じます。

○開催日時：2022年11月11日（金） 18:15～ 受付：18:00～

○場所：(一社)茨城県産業会館 2階大会議室（水戸市桜川 2-2-35）

○プログラム：

18:15～ 開会

ごあいさつ 土木学会関東支部茨城会 会長 小柳武和（茨城大学名誉教授）

18:30～20:00（質疑応答含）

演 題：いばらきの郷土づくりの物語 - 「海門橋」「勘十郎堀」 -

概 要：那珂川の河口に架かる「海門橋」は、明治28年に渡船に換わり初めて木橋が建設され、その後、幾多の損傷や落橋を経て、現在、赤く色づけされた5代目の鋼製ランガー橋（アーチ橋）が架設されている。この変遷の中には悲しい歴史が秘められている。特に、これまでの木橋に替えて、当時の土木技術の粋を集め昭和5年に竣工した鉄筋コンクリート製4連アーチ橋の第4代海門橋は、待望の永久橋で東洋一の規模（スパン長）と美しい姿を誇り「虹の架け橋」とまで称賛されたアーチ橋であった。

しかし、那珂川河口の深い軟弱地盤のため、橋脚が上部工の荷重に耐えきれず沈下し、僅か8年後の昭和13年に落橋している。

また、「勘十郎」は、江戸時代の中頃、涸沼から巴川（茨城町海老沢～銚田市紅葉）を結ぶ約8kmの運河として、水戸藩が計画し建設に着手した。当時、東周り廻船は難所であった鹿島灘を迂回し江戸に到達するため、海老沢、紅葉間に陸路を挟むルートを通っていたため、積荷の積替えなど不便で多大な労力を要していた。そこで、この間に運河を造り輸送の合理化を図ると共に、藩では通船料を徴取し財政の健全化を図ろうとした。しかし、この事業には運河掘削の困難さや労働者処遇の問題、船の運行形態の不便さから完成に至らず頓挫する。

いずれも地域の期待を担った巨大事業であったが、悲しい結果に終わっている。

この歴史に秘められた建設の背景や当時の技術を紐解きながら、現代における技術的評価を試み、今に残された教訓を探る。

講演者：1. 「海門橋」について 茨城会調査研究部会 部会長 澤島 守夫 氏

2. 「勘十郎堀」について 茨城会調査研究部会 鈴木 信之 氏

20:00～20:20 全体討論

20:30 閉会

○参加費：無料（事前登録制、連絡先は下記）

○特典：希望者には土木学会 CPD 単位が発行されます（1.9単位）

○申込方法：下記ウェブページより参加登録をお願いいたします

<https://forms.gle/5WjzW4AUNKphJDuGA>

- ・ 申込期限 : 2022 年 11 月 7 日 (月)
- ・ 定員に達し次第、申込締切とさせていただきます
- ・ おひとり様ずつのお申込みをお願いいたします
- ・ COVID-19 の感染状況により、開催の延期もしくは中止のご案内をする場合があります
ことをあらかじめご了承ください



○連絡先 : 〒316-8511 日立市中成沢町 4-12-1 茨城大学工学部

土木学会関東支部茨城会事務局 担当 : 曾我部

TEL / FAX : 0294-38-5160 E-mail : sogabe.natsumi.0123@gmail.com